
異常な世界 男子高の物語でB L要素満点ですww

和茶巢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

【Nコード】

N6252X

【作者名】

和茶巢

【あらすじ】

上陽学園、ここは日本で一番入るのが難しい男子高だ。そこに通う男子たちが繰り広げる、物語。BLです。

異常な世界 一話（前書き）

小泉 こいずみ 春（春）

誕生日 4 / 7

高校三年の18歳

周りにはバカつて言われているww

高校一年の弟がいる。

そして、弓道部の部長をやっている。

クラスの中では成績は下から数えたほうがはやい。

家は政治関係の仕事をしている。

誰にでも優しく、クラスの人気者。

異常な世界 一話

？「もうすぐでもうすぐで会えるんだよ。ねえ、早く会いたいな。」

高校三年の初めこんな事が始まるうなんて…

タツタツ

春「ヤバイヤバイ！あと、五分！！」

ハアハアハア

春「セツセーフ！！」
バンツ

？「アウトだバカ。」

春「痛！！なっ、セーフだろ！結！！！！」

結「一分遅れてんだよ。」

春「一分ぐらいいいじゃねえか！」

結「駄目な物は駄目だ！」

春「結のケチ！！行くなら起こしてくれたっていいじゃないか！」

結「バカか、今日は生徒会の仕事ではやくから行くって言ってただろ！」

春「あーもう！バカバカうるさいんだよ！！結のバカ！！」

結「チツ、やんのか！？」

タツタツタツ

？「結さーん！！いい加減喧嘩しないで来てください！もうすぐ、始業式が始まりますよ！！」

結「ああ、ごめん空。今からそっちに行くよ。」

空「はい！」

結「そうだ、おい春これ。」

そういつて結が俺に紙とネクタイを渡してきた。

春「ん？」

結「ん？じゃない。紙は組が書いてるやつ、ネクタイはお前がしてないからな！」

そういつて、結は俺の首にネクタイを着けてくれた。

結「始業式ぐらい、ちゃんとした服装で来い！」

春「すまん。でも、サンキュー！ありがとうな！！」

ジッ

うわ、結の後ろから冷たい視線が！

結「空体育館にいくぞ。」

空「はい！わかりました！」

コン

空「春もさつさと体育館に来いよ。結さんに恥じかかせたらタダじやおかねえから。」

うわーすごい変わりよう

異常な世界 一話（後書き）

あきつき
秋月 結ゆい

誕生日 12/2

成績優秀・運動神経抜群・文武両道とゆうすごい肩書きをかつさら
っている高校三年。

春とは、小学校の頃出会ったころからの付き合いで幼なじみ。
クールで静かだが、怒ると怖い。

家は上陽学園の理事長や校長、医者などをやっている。
生徒会長をしている。

空は次の前書きで書きます（＾o＾）／

異常な世界 二話（前書き）

野上のがみ空そら

誕生日 5 / 14

生徒会副会長

家は野上財閥という有名な財閥で世界で一番か二番を争う財閥だ。そして、結の事が大好きで、結にだけは敬語を使う。春たちとは中学生から付き合うようになった。岬とは幼なじみ。

異常な世界 二話

ガラス　　タツタツ

？「おい！遅かったな。寝坊か？」

春「うるせえ、いいだろ！岬！」

岬「なんだと！喧嘩売つとんのか？」

空「その人たち。もうすぐ、始業式が始まるので静かにしてください！」

岬「つと、始まるみたいだな。静かにするか。」

春「そうだな。」

空「ただいまから始業式を行います。新一年生が入場しますので、拍手で迎えてください。」

パチパチパチ

ボソツ

岬「なあ、春の弟ってこの学園に入ったんだよな？」

春「ああ、一年の代表だったかな？」

岬「マジか！兄弟で大違いだなwwてか、Sクラス行き間違いないんじゃない？」

春「かもなww」

この学園は一年は様子見のため成績順でA〜Dの4クラス。二年からはその上のクラスSクラスと言うのが出来る。そして、俺ら四人はSクラスに所属している。

さつさと、おわんねえかな？

結「それでは、先生方の紹介をいたします。」

岬「なあ、また理事長や校長たちは丸投げか？」

春「そうじゃねえ？」

ここの先生たちは大抵生徒の自主性を伸ばすために始業式などの司会は生徒に任せている

結「それでは、一年の先生方から…」

岬「先生だれになるんだろ？」

春「どうせ、また新谷だろ？あいつ先生の中で一番偉いんだろ？」

岬「なんだ。てか、俺あいつ嫌いなんだよな。」

春「俺もだよ。」

結「Aの担任は新谷先生。」

ザワザワ

岬「はあ！マジで!？」

春「毎年、Sクラスの担任は新谷だろ？」

空「静かにしてください!！」

結「え〜、それではSクラスの担任は…。」

春「なんで!?!なんでいるんだよ!?!」

異常な世界 二話（後書き）

すずおか
鈴岡 岬 みさき

誕生日 9 / 7

剣道部の部長

こいつもバカと言われている。

春とは最下位争いを繰り広げている。

家は剣道の名門である事情があつて、別の仕事もしている。

空とは幼なじみで春たちとは中学生から付き合つようになつた。

異常な世界 三話（前書き）

憂騎 零

誕生日 8 / 17

現在20ながらも上陽学園の先生になることになった。
学園にいたときはテストは100以外とった事はないくて生徒会長
をやっていて、結も入学式に強引に生徒会に入れられた。
今年、Sクラスをもつ事になった。

異常な世界 三話

？「ハロ― 一・二の奴らは初めまして！三年の奴らは久しぶり」

ダツダツ

春「なんで！？なんで、零が入るのか、先生になつたってマジ！」

零「春！！久しぶりだな！元気にしてたか？てか、先生じゃ無かつたらここにいないだろ？相変わらずバカだなww」

春「バカ言つな！てか、今零って今年で20じゃなかつた？」

零「そつだよ。大人の事情だから、詳しくはきくなww」

春「わかつた！」

結「憂騎先生と小泉さんは早く戻ってください。」

零・春「え〜！」

空「さつさと帰れって言つてんだろ？五秒以内に帰らないと反省文50枚。もちろん、先生も」

うわ怖！

春「岬〜怖かつた！！」

岬「ドンマイww空は怒らすと怖いからなww」

結「次は、一年生徒代表の挨拶です。」

？「はい。先輩の皆さま方、一年代表の小泉 葉です。」

岬「春、弟の登場じゃん！」

春「ああ。」

結「以上で始業式を終わります。」

異常な世界 三話（後書き）

小泉 葉こいずみ よう

誕生日 3 / 26

春の弟

もしかしたら、春より賢い!?

一年代表でAクラスに所属している。

岬の事を師匠とよんでいて、したっている。

異常な世界 四話

春「にしても、疲れた！ なげーよー！！」

岬「始業式はまだ短いほうだろww つか、弟くん凄かったな！！」

春「ああ、そうだな。」

岬「ん？ どうした？」

春「なんでもねえーよバカww」

岬「なっ！？ お前のほうがバカだろ！！」

？「バカども、ケンカはやめろ。」

春・岬「ああ！？」

空「そうだよ、ケンカするなみつともない。」

春「ああ！？ なんていった？」

結「うるさいバカ！ バカにバカっていつて何が悪い。」

春「ああ！それは、ケンカ売ってんのか？」

漣「初日からケンカするな〜！ バカやろうども」

結「なっ!?!」

春「はっはっはっ! 結バカやろっつて言われてる!?!」

結「うるさいな!」

漣「お前らあと五分でホームルーム始まるってわかってっか?」

岬「うわ!? ほんとだ!! やべえ!」

空「わかってたなら、先に言えよ! 漣じゃなかった憂騎先生!?!」

漣「遅れたやつ、殺すからww よーい」

春「ちよっ!?!」

漣「どん!」

異常な世界 四話（後書き）

どーも！

作者ですw w

いつもは、キャラ紹介なんですけど、新キャラが今回はないので書
けませんw w

まあ、後々でる予定ですw w

次の予告

三年になった四人、教室では見慣れた光景がと違ってたら。
新しい影が！

次回もみてくださいm () () m

異常な世界 五話

春「はあはあはあっ。」

結「くそっ。」

空「鬼畜すぎるだろ！」

岬「まあ、間に合ったにいいんじゃない？」

春「そうだけど、体育館からここまでダッシュってｗｗ」

岬「まあ、いい練習になったとおもえばいいんじゃない？」

結「たしかに。」

空「岬もいいことたまには良いこというな。」

岬「たまにつてｗｗ」

春「…。なあ？」

結「なんだ？」

春「人変わってね？」

岬「ほんとに、五人ぐらい変わってる。」

空「ある意味お前らが落ちてないのが、不思議だなWWW　もちろ
ん、結さんは別ですよ!!!」

この学校の制度で成績順にクラスの入替えがある。
だけど、Sクラスのクラス替えは珍しいものだ。

結「見たところ、四人ぐらい転校生みたいだな。」

岬「うわっ！　転校してきてSクラス行きなんてやべえなWWW」

空「というか、その転校生どっちも双子みたいですねWWW」

春「ある意味すげえなWWW」

岬「ん？　なんか、そのうちのー組が近づいてくるぞ?」

異常な世界 五話（後書き）

はいっ！

五話の終わりですw w

次は二組の双子の登場です！！

次回予定

春たちの前に現れた、二組の双子。

それも、どっちも何かわけがあるみたい。

いったい、春たちになにか関係が？

異常な世界 六話（前書き）

神宮寺 雅

誕生日 2 / 12

ある、有名な剣道道場の跡取り息子
昔は京都に住んでいた。
なので、時々関西弁になる。
髪が長くて女によく間違えられる。
昔岬と何かあつたみたいだ。
棗は双子の弟

神宮寺 棗

誕生日省きます

雅の事をしたっていて憧れている。
髪は短く、顔立ちはきれいだ。
棗は剣道より柔道や空手、体を使う技を得意とする。
雅は双子の兄

異常な世界 六話

? 「久しぶりです。」

? 「元気になってみたいだな」

結 「岬? 知り合いか?」

岬 「あつ!? …。 すまん誰だたっけ?」

? 「あつ、やっぱり覚えてないですよね。」

? 「そりゃ、10年ぶりぐらいだからな。」

岬 「ごめん。 つか、10年前って何かあったよっな…。」

空 「珍しいね! 岬が記憶を忘れるなんて!」

岬 「くそっ! 思い出せねえ!」

? 「いいんですよ。 そのうち思いだしてくれたら。」

? 「なあ、雅。 忘れられてるなら名前いってごっせ。」

春 「おお! 頼むな!」

? 「それじゃあ私から。 私の名前は神宮寺 雅です。 隣にいる棗の双子の兄です」

棗「俺は神宮寺 棗だ！ 隣にいる雅の双子の弟だ」

岬「忘れちまってごめんな！ ちゃんと思いだすから！ これからもよろしくな！！」

雅「はい！」

棗「よろしくな！」

キーンコーンカーンコーン

雅「チャイムがなったので僕たち戻りますね」

空「また、あとでね！」

棗「やっぱり、岬のやつ昔の記憶消されとるな。」

雅「みたいやな。 残念やわ。 けどな、棗獲物が近くにおるやん。」

「

棗「やな。相手は俺らにきずいてへんみたいやし。」

雅「すぐに仕留めたんねん。また、昔のように笑顔になってもらうために。まっとな、岬はん」

異常な世界 六話（後書き）

裏側 W W

春「なあ、今回俺ら出番少なくなねえか？」

結「だよな。」

春「これからは、結の出番は多分へると思うよ W W（b y 作者）だ
つて W W W W」

結「なんだって!？」

春「お前、ある意味主役てき立場なのにな W W」

結「くそっ！ どうせ、今出てきた新キャラをいっぱいだすんだろ」

春「みたいだな W W」

結「はあ、最悪だ」

春「けど、俺はいつでもお前を見てるから」

カア〃〃

結「急になっなにいつてんだ!」

春「顔真っ赤だぞww」

結「うっうるさい!」

春「かわいいなww」

結「やめろー!」

空「まあ、こんな風に時々出番が少ない人が喋るみたいですね。まっ、気が向いたらみてくださいなww」

異常な世界 七話

キーンコーンカーンコーン

春「やっと、全部終わった!」

結「お前はほとんど寝てただろ!？」

春「バレてたか？」

結「当たり前だ!… あと、これから部長会議があるから岬に言
つといてくれ。」

春「了解」

結「お前も忘れずに行けよ!」

春「わかってるって!」

結「先に行ってるからな!」

春「岬!」

岬「ん? なんだ?」

春「このあと、部活会議があるから来いって結が言ってたぞ。」

岬「おおっ！マジかんじゃ、一緒に行くか？」

春「そだな」

春「でさww 結の奴が朝起こしてくれるって言ったのに、先に
行きやがったんだよ！」

岬「乙ww」

春「一言だしww」

プツンッ

岬「!!」

春「ん？ 岬？ どした？」

ポンッ

岬「わりいww 大切な用事があったって言うか今出来たから行っ
てくる！」

春「はあ！？ なにいつてんだ？ これから会議だぞ？」

タッタッタッ

岬「変わりの奴に行くように行ってくれ!」

春「おいっ! ちょっと待てっ!」

岬「用事って言っとけよなww」

春「おいっ! って聞こえないよな。用事ってなんなんだよ。」

異常な世界 七話（後書き）

キャラの感想 W W

空「急に岬用事って走りだしましたね。」

結「ほんとにな。」

空「何処に行くんでしょう？ これから会議って言うのに……。」

結「俺が春の立場なら追いかけただろうな W W」

空「さすが結さん！ それじゃあ、僕とゆう存在を追いかけてくれないか!？」

ニコ

結「……………」

空「ああ！ その笑顔たまらないです!! 結さーん
バツ

サツ

結「抱きつくな!」

空「冷たいですね……。 そんな結さんの事が大好きです。」

結「はあ、勝手にしとけ……。」

空「ありがとございませす！ 一生ついていきます！...！」

春「次回予告は俺が貰った！」

次回予告

急に走りだした岬。 大切な用事ってなんだよ。

こっちの会議も大切だろ！

そして、岬が倒れる！？

はあ、なんだって？

まあ、次回も見えてくれよな

異常な世界 八話（前書き）

今回は岬視点です。

異常な世界 八話

ガチャ

やっぱり。

結界が破られてやがる。

俺は皆にある事を隠している。

それは、特別な仕事をしている事だ。

特別な仕事とは空を守る事だ。

空は特殊な体質で昔から変な物。

つまり普通の人には見えないやつらに襲われるという体質を持っている。

それが、五代に一度野上家の血縁者に現れる。

そのため、俺ら鈴岡家は野上家のボディガードをしている。

空にはまだその事を知らせていない。

今はまだ、平和に過ごしてほしいから。空にこれ以上の負担をかけたくないから。

ちっ！

俺が作った結界は誰にも破られた事は無いのに。

だれがやっつたんだ！

バツバツバツバツ

まあ、とりあえず仕事みたいだな。

キエーッ キエーッ

いつ聞いても不可解な音だな！

「お前らがいるから空が安全に生活できないんだよ！」

グシャッグシャグシャッ

ふう、やっと終わった。

たく、なんでこんなにいるんだよ！

こいつらが、結界を解いた？

あり得ない。

いつものやつとかわりない。

じゃあだれが？

まあ、また結界を張り直さないと。

？「なあ？ 俺それをやられると困るんだけどWWW」

岬「ああ！？ 誰だ！ ここには誰も入れないはずだぞ！！！」

異常な世界 八話（後書き）

次回

岬の結界を破ったやつが？

どうなる岬!？

異常な世界 九話

?「誰か? 覚えてないの? つまんないなww」

岬「はあ? お前なんかしらねえよ! とりあえず、お前が結界を破ったみたいだな!」

?「そうだよww てか、あの事を覚えてないなんて、都合よすぎない? 最低だね。」

こいつなんの事をいつてんだ!?

岬「うるさい! とりあえず、お前を倒す!」

ダッ

カキンッ

?「熱くなんなってww いつものお前らしくないぞ? ってだいぶ昔の話だけどwwww」

昔? 俺はこいつと戦った事なんて…。

岬「うるさい黙ってる!」

？「ほんとに。残念。昔のほづが殺りがいがあったのに…。」
ガギンツ

岬「なっ!？」

俺の持っていた木刀は弾かれてしまった。

？「ほんとに何にもわかんないみたいだし、全部…。いや、自分がどれだけひどいか教えてやるよww」

岬「なにをいって…。」

？「お前は仲間を捨てて、守るべき空をも捨てて、自分だけ生き残ったんだよww」

俺が仲間を捨てて、空をも捨てた？
こいつなにをいって…。

岬「…あっ!」

？「思い出してきたようだね。」

岬「そうだ。俺はあのとき！あああああ!」

思い出した…。

俺は空を仲間を見殺しにした…。

自分が弱かったから？

いや、違う。

自分を守りたかったから……。

俺はなんてことを。

？「ん」。今の君を倒したって、面白くなさそうだねww じ

やあ、待ってあげる君が全部思いだして昔の力を取り戻したらねw

w その前に空は返して貰うから。」

ガッ

俺は相手の足をつかみ、声をあげた。

岬「俺は空を守るんだ！ 昔のようにならないために！！」

？「残念。今は無理ww それじゃあお休みなさいwwww」

ガッ

岬「ゲハッ！」

俺は腹をおもいつきり蹴られた。

意識が遠くなっていく……。

岬「そつそらをつれて行かないでくれ……。」

ガタッ

？「ごめんね。 鈴岡くん……。 空は俺らにとってはかけがえのな

い人だから。」

俺はその言葉を聞いてから気を失った。

異常な世界 九話（後書き）

気を失った岬！
どうなる？

異常な世界 十話

んっ？

ここは、どこだ？

ベッドの上？

保健室かな？

？「おいっ！ 岬目が覚めたか！！」

んっ？

この声は春か？

岬「おお、大丈夫だ。」

春「屋上でお前が倒れてたからビックリしたぞ！！」

岬「ああ、ごめんな。」

春「大丈夫なのか？」

岬「ああ、ただの過労とストレスだよ。」

春「ほんとうに、お前は……。」

岬「そんな顔をするなww お前らしくないぞwwww」

パンツ

岬「痛っ！！」

春「おいっ！？ 空なにしてんだ？」

空「なにつて、叩いたんだよ。」

春「はあ！？ 意味わかんねえ！！ 岬は今病人なんだぞ！！！！」

岬「春いいよ。」

春「いいわけないだろ！」

空「春、一回外に出てくれる？」

春「なんでだよ！？」

岬「春、頼むから。なっ？」

春「なっ……。岬が言うなら。」

岬「ありがとうな。」

ガラッ

バンッ

岬「空、春は行ったぞ？」

空「……………バカ。」

岬「ごめん。」

空「バカ。 バカバカバカバカバカバカバカ!!! 何倒れてんだよ! 心配したじゃねえかよ!!!」

ああ、また空を泣かしちまったな。

岬「空? おいで。」

バツ

空は素直に俺の腕の中に入った。

そして、俺にバレないようになのか、息を殺して泣いている。

岬「俺は何処にも行かないから泣くな。」

空「泣いてねえよ! つか、お前は俺に内緒で働きすぎなんだよ!!! たまには、俺を頼れよ……。」

岬「ごめん。 毎回お前には心配かけるな。 わかった、お前には出来るだけ頼るようになるから。 だから、お前は泣くな。 なっ? かわいい顔が台無しだぞ?」

空「うるさいバカ岬……。 もう、倒れたり俺のそばを離れたりするな……。」

岬「わかった。 それじゃ、お前も俺のそばを離れんなよ?」

空「わかった。」

岬「素直でよろしいww」

空「グスッ　とりあえず、まだ生徒会の仕事あるから行く。」

岬「わかった。　気をつけて行けよ？」

空「お前は無理せずに休んどけよ！」

岬「了解。　あつ、なあ雅と棗みたら、来るように言ってくれ。」

空「わかった。　じゃあな？」

岬「おう！」

空、ほんとうに俺のそばを離れないでくれよな？

異常な世界 十話（後書き）

春「おいっｗｗ 結なにいじけてんだ？」

結「なにつて、俺の出番かすくねえんだよ！！！」

春「しゃあねえじゃねえかｗｗｗｗ」

結「はあ、出番が欲しい。俺だつて、最初は重要な人物だったよな？」

春「まあなｗｗ お前はまだいいよｗｗ 俺なんか、主人公的なポジションだったんだせｗｗｗｗ」

結「そうだよな。」

春「なんで今は岬が主人公みたいな事に!？」

結「えつと、ごめん。」

春「謝るな、つらくなる。」

結「ほんとに。」

憂「つてこんなネガティブなやつらなんかほつといて次回予告言っ

ちやいます」

次回

岬が雅と棗を呼んだ理由とは？

次回をお楽しみに

って、俺が一番出番ないんだけどな…。

異常な世界 十一話

岬「はやく二人こないかな？」

なぜ、俺は二人を呼んだかと言うと、二人は俺たちと一緒に戦った仲間だったからだ。

二人に記憶を思いだした事を喋ろうと思う。

そして、許してもらえないかもしれないがあの手を謝ろうと思う。

ガラッ

雅「岬さん呼びました？」

棗「なんだよ！ 俺ら忙しいんだけど。」

雅「こらっ！ そんなこと言うな！ 岬さんはただでさえしんどいんだから！！」

岬「ああ。大丈夫だよ雅。それより、お前らに言わなければならぬ事があるんだ……。」

雅「えっ？ 何ですか？」

棗「くだらない事だったら怒るからな！」

岬「ああ。あのな。」

棗「なんだよはやく言えよ！」

雅「こらっ！ 棗！」

岬「俺、すべてを思い出したんだ。あの時はごめん…。許してもらえないかもしれないが、謝っておく。」

雅「ほんとにですか？」

棗「岬。記憶戻ったのか。」

岬「ああ。そして、今空が危ない。棗、空を監視しといてくれないか？」

棗「空さんが！ わかった。なんかあったらすぐに連絡する。」

棗「たのむぞ…。」

そして、俺は雅を見たら雅は泣いていた。

岬「なっ！！ 雅どうした！」

雅「嬉しいんです…。岬さんが昔の事を思い出してくれて…。」

岬「今までごめんな？」

雅「いや、いいんです。岬さんが記憶が戻った事だけで十分です…。」

そういつて、雅は笑顔になった。

岬「そうそう、お前には2つ頼みたいことがあるんだ。」

雅「はい！ 何ですか!？」

岬「まず一つ目は、昔のしゃべり方に戻ってくれないか？ お前らが標準語だと調子狂うんだww」

雅「わかりました。それじゃあ、言い方に戻りますね。」

岬「ああ、頼む。そして、2つ目これが本題だ。」

雅「何ですか？」

岬「記憶がもどったと言っても曖昧なんだ。それを教えてほしい。嫌だったらいいんだ、嫌な事を思いださせるだろうから……。」

雅「……………。わかりました。すべてをお話します。」

岬「ありがとう。本当にすまん。」

雅「いえいえ、私は岬さんのためならなんでもしますから。」

岬「ありがとうな。雅。」

本当にありがとう雅お前も嫌だろつに俺のために…。

異常な世界 十一話（後書き）

棗「今日は俺が次回の説明みたいだな！」

次回

岬と空さん、そして俺たち双子の過去がわかる。

昔いつたい何があったのか？

すべては次回で！

ちゃんと見るよ！！

異常な世界 十二話（前書き）

今回は雅目線で岬の昔話です。

異常な世界 十二話

あれは、私が五歳の頃。

私たちは父に連れられて岬さんの家に行った時、私たちは自分たちと変わらない歳の少年が大人たちを打ち負かしてるところを見ました。

その少年は幼いながらも最強の名を持っていたいました。

そして、彼は表情を一つも変えなく、無口で冷たい人でした。

そして、七歳の頃もう一度岬さんの家に行きました。

そしたら、その少年は別人のようになっていました。

ある一人の少年に向かって笑い、怒り、怒鳴ったりして色々な表情をみせるようになりました。

そう、岬さんは空様のおかげで柔らかい人になっていました。

そして、私たちは空様を守るようにと命じられ、岬さんの下につくようになりました。

岬さんは誰よりも強く、優しく、怖く。

そして、大人に強く信頼され私の憧れでした。

そして、一年後あの事件は起こった。

岬さんは怒り狂い昔のような冷たい目で狂ったような笑い声であったは、敵味方関係無く、殺すようになった。

空様を取り返すためなら何でもやる。

そう言っって何人も何人も…。

最強だったあなたを止める事は誰にもできなかった。

そして、止めに入った私たち二人もあなたに……。

でも、みんなと違って私たちは生きてました。

でも、その後の事はわからないです。

後日、話を聞いたら岬さんが無傷で空様だけを助けだしたと聞き
ました。

異常な世界 十二話（前書き）

岬視点に戻ります。

異常な世界 十二話

すべて思い出した…。

俺は、皆を……。

岬「そうか……。ありがとうな話してくれて。」

雅「いえ、私は岬さんの為なら何でもやりたいんです。」

岬「ありがとう。そして、ごめんな……。許されない事だとは思
う。でも、もう一度だけ俺と手を組んで空を助けてくれないか？」

雅「…もちろんですよ。けど、一つだけ約束してください。」

岬「なんだ？」

雅「あなたの中にいる鬼に乗っ取られないでください……。それだ
け、約束してください。」

鬼……。

俺の中にいる最もやつかいな奴。
そして、俺にも操れない人格……。
でも、今の俺なら？

昔より、成長したおれなら……。

岬「……………。大丈夫だ、俺の中にある鬼は俺自身が制御してみせる！　そして、誰も俺より強いとは言わせない…。　約束する絶対に鬼は俺が制御してものにしてみせる！」

雅「……………そこまで言われれば安心です。　私は岬さんの言葉を信じますから。」

岬「ありがとう。　雅。」

雅「さて、私も空様の様子を見てきますね？」

岬「ああ、頼む。　何かあったらすぐに連絡をしてこい。　約束だぞ！」

雅「わかりました。　行ってきますね！！」

岬「ああ、空を頼んだぞ！」

雅「はい！」

こうして、雅は保険室を離れた。
なにか、引つ掛かるところがあるんだが、なんだったっけな？
でも、回復したら鬼を操れるようにしなきゃな……………。
じゃないと、皆の罪滅ぼしにならねえからな……………。
よっし、決まったらはやくねるか！

異常な世界 十四話（前書き）

保険室を出たあとの空視点です！

異常な世界 十四話

にしても、岬は無茶をしたがるんだよな…。
ちよつとは休んだらいいのに……。

つか、自分のペース配分ぐらい考えるよな！
まったく!!

って、あの双子を呼ぶように言われたんだっけ？

おっ！

空「おーい、双子ども！」

雅「ん？ どうされましたか？」

空「なんか、岬が二人を呼んでこいって言ってただけど…。」

棗「あゝ、わかった」

雅「教えてくれてありがとうございます！ それでは…。」

そついつて、二人は保険室に向かって走って行った。

にしても、岬はいつたいあの双子になんの用事なんだろう？
まあ、いいけど。

それより、はやく生徒会室に戻って結さんと二人っきりになる〜！

って、目の前にいるやつなんか危なっかしいな…。
重たそうな荷物をいっぱい持ってフラフラしてる…。
今にも転けそうだなww

あっ!?

?「わぁ!」

あゝあ、本当に転げやがった…。
はぁ、助けに行くか。

空「大丈夫? こつちにもプリント飛んできたんだけど…。」

?「Thank You! すごく助かったよ!」

そう言って、男はほっぺたに手を回してほっぺたにキスをしてきた!

空「なっ!?! なんて事をするんだ!?!」

?「何って、キスです! 感謝の気持ちです!?!」

空「つて、ここは日本だ！ 外国じゃねえんだからやめろよ！」

？「Oh！ ダメでしたか…。」

空「そらなあ…。」

つて、こいつ髪の色や目の色、行動や英語の発音…。
もしかして！

空「なあ、いきなりで悪いんだけどお前外国人？」

？「YES！ でも、ちよつと外れ…ww 僕は樹 ロイドつて言
つて日本人とイタリア人のハーフなんだww そして、この春から
日本に引っ越しに来たんだ！」

空「そうなんだ…。 よろしくな！ そして、さっきはごめん！」

ロ「Why？ なんで謝るんですか？ 気にしてないですよww
おかげで、日本ではキスをしたらいけない事がわかりましたしww」

空「まあ、そうだけど…。」

ロ「とりあえず、僕は行くんで。」

空「ああ、引き留めてごめんな？」

ロ「いえいえ、僕の荷物を拾うの手伝ってもらったんで！ こつちこそThank Youでした！」

空「それじゃあな！」

ロ「はい、それじゃあチャオです！」

そういつて、ロイドは走りだした。
いいやつだったな。

異常な世界 十四話（後書き）

樹 ロイド（いつき ロイド）

イタリア人と日本人のハーフで、今年の春から日本に引っ越して来た。

そのおかげで英語が時々混じっている。

髪の毛と目は綺麗な緑色で空たちと同じクラスだそうだが実は双子の弟がいる。

異常な世界 十五話（前書き）

今回は素視点です。〇 ^ - ^ 〇

異常な世界 十五話

にしても、空さんいないな…。
どこに行ったんだろ？
心配だな…。

って、あれは空さんだよな…？
隣にいるやつは誰だ？

あつ、離れた。

棗「野上く〜ん誰と話してたんだい？」

空「ロイドって言うやつww ドジで可愛かったぞww」

棗「そうなんだ」

ロイド…。
あいつ、空さんに近づいたのか…。
弟のほづが岬に手を出したし…。

あいつも動き出したんだな…。
早く始末しないと！

空「……つめ なつめ 棗！」

棗「はいっ！ ってどうかしたか？」

空「いや、話しかけても答ええないし、怖い顔で何か考えてるし…。
どうかしたのか？」

棗「いや、なんでもないww ただ単に考え事をしてただけだから…。
」

空「そうか？ ならよかった…。 しんどいなら言えよ！ 岬みた
いに倒れられたら困るからな！」

棗「ははww そんな、倒れる前に家に帰って寝るからww」

空「棗は偉いなそれを岬に見習ってほしいぜww」

棗「しょうがないじゃないか、岬は岬で大変なんだよ！ 昔だって
そうだったんだから…。」

空「…。 そうか…お前たちは昔の岬を知っているんだな…。
なあ、どんかやつだったんだ？」

ここで、本当の事を言ったら岬の地位は下がるんだろうな…。
でも、空さんは昔を思い出すかも知れない…。

そうだったら空さんは……。
しかたない。

棗「いいやつでしたよ。昔から正義感が強くて仲間が傷ついたらすぐに相手を倒しに行くやつだったなww ほんとに昔から尊敬してるんだ。」

空「そうなんだ！昔から今と変わらないやつだったんだな！！
よかった！」

棗「なんでよかったんだ？」

空「ん？今と変わらないやつでよかったって事ww」

棗「変わりましたよ……。一回ほど。」

空「！！そう…なのか？」

棗「はいww 小学生の時のテンションと中学・高校のテンションはまるで別人のように変わりましたww」

空「なんだww そんなことがww」

嘘です…。

岬はあなたに出会ってから、感情を出すようになり、あなたがさらわれてから鬼が出てきた。

なんて、あなたに言ったら悲しむだろう…。

だから、言えないほんとの事なんて…。

空「んじゃ、俺はこじでー!」

棗「んじゃな。」

いったな…。
よし!

棗「後ろにいるやつ! さっさと出てきやがれ!」

?「あららwwww バレちゃったかwww じゃあ、君は二人みたく
にいる存在じゃないから死んでくれる?」

異常な世界 十六話（前書き）

色々グロいかもです…。

素視点で（* ^ | ^ *）

異常な世界 十六話

俺の目の前に立っていたのは、岬を襲ったやつだ…。

俺一人で相手できるかな…。

いや、弱気になったらそれですべて終わる！

せめて、気持ちだけは勝ってやる！！

棗「なぜ、俺が死ななきゃならない？ 死ぬのはお前だ！」

？「いやだな」ww 考えればわかるだろ？ ww お前が弱いからだよww」

棗「黙れ！」

俺は落ちていた鉄パイプを拾い走りだした。
一発でも、当たれば！

棗「死ねー！！」

ガキンツ

棗「なっ！？」

鉄パイプは一瞬で弾きとばされてしまった。

？「あゝ弱いww 弱すぎるよwwww なあ、悪あがきなんかしないではやく死ねよww」

棗「黙れ！ お前なんか俺一人でじゅうぶんなんだよ！！」

？「じゅうぶんなんだww んじゃ、これくらいよければね？w
」w

ヒュンッ

あいつが刀を降り下ろした瞬間…。

ガリッ

棗「あああああああ！！」

俺に今まで感じた事のない痛みが走った。
そう俺の左腕が無くなったのだ。

棗「俺の腕が！ 腕があああああ！！」

?「あはははは W W 飛んでっちゃった W W W W やっぱり、弱いじゃん W W」

棗「はあはあはあ。」

俺は意識が遠くなり息ができなくなった。

?「あはははは W W 面白くない W W W W さっさと死んでよ W W」

そして、あいつは刀を降り下ろした…。

あつ、終わった。

ガキンッ!

棗「……。 えっ!? 俺…生きてる?」

?「大丈夫? 今助けるから!」

棗「兄さん!? なんでここに? それに岬まで…。」

目の前には岬が立っていて、剣を竹刀で受けとめていた。そして、横には雅がいた。

雅「なんでって、お前の魂の反応が急に消えそうになって…。」

岬「雅に感謝しろよww つか、まだ俺病人なんだけど…ww おい、雅回復使えるよな？ 早く棗を回復させてやってくれ！」

雅「わかった。痛いかもしれないけどごめん。」

棗「ありがとう二人とも。」

？「わあ〜！ 鈴岡くん来てくれたんだ！！ それに、さっき戦った時よりパワーが上がってるし！ 最高！！ さすが、鈴岡くん！！」岬「黙れグズ野郎が！ 今の俺はさっきとは違う。本気で殺さしてもらうぞ！」

？「本気できてくれるのは嬉しいけど、グズ野郎はひどいなww 俺にはライトって言う名前があるのにww」

岬「お前にはグズ野郎で十分だ。そして、一個質問。兄貴はどうした？」

ラ「兄貴は、空のところに行ってるよww」

岬「なっ！？ おい！棗！雅！ 治療が終わったら即座に空の救出をたのむ！」

棗・雅

「「了解！！」」

岬「それじゃいごうか、本気の勝負を！」

ラ「あはははww 楽しみだなwwww」

異常な世界 十七話（前書き）

岬視点です。

異常な世界 十七話

岬「やっぱり、お前を今殺す！」

ラ「わおww んじゃ、これぐらいはよければよね？」

そう言って、ライトは剣を振りかざした。

岬「甘いんだよ！」

岬は木刀で避けた。

しかし、木刀は真っ二つに割れてしまった。

棗「岬！！！」

岬「いいから、さっさと空の元に行け！！！」

ラ「あはははww 壊れちゃったねwwww」

岬「なめんなww」

ラ「え？」

そう言って、岬は目に見えないはやさでライトの腹の下に来ていた。

岬「碎ける。」

ゴキッ

ラ「ぐはあっ！」

ライトは血を吐いた。

ラ「なっ…なんで？ 木刀は壊れたはずじゃ？」

岬「バカだなww 使ったのは、木刀の裏ww それに、お前のあばら骨は折れてるだろうなww」

ラ「バカはどつちだ！ww」

ライトは笑いながら剣を持ち直し俺に剣をむけてきた。

岬「なっ！？」

ビッ

俺の顔に傷がついた。

ラ「なんだww 顔に傷がついただけかww 次はちゃんと殺してやるよwwwwwwww」

岬「傷？　なあ、俺今血が出てる？」

ラ「出てるよｗｗ　真っ赤な血がね！！」

俺…。

血が出てる？

血が出て…。

血……。

岬「うわああああ！！」

ラ「あはははｗｗ　壊れたｗｗ　鈴岡君が壊れたｗｗ

岬「あはｗｗ　ねえ、君の血は何色？　君の目綺麗だねｗｗ　ねえ？　僕に全部ちようだいｗｗ　いいよね？　拒否権はないよｗｗ」

ラ「え？」

ガリッ

一瞬で腕が無くなった。

ラ「なあ！？」

岬「あはははｗｗ　全部無くなれｗｗ　まずは一本目ｗｗｗｗ」

ラ「うわああああ！」

岬「あはっww」

ラ「君は鬼！」

岬「鬼？なにいつてんの？僕は岬だよww」

ラ「黙れ鬼！」

岬「ねえww君の目綺麗だねww ちょうだいww」

ライトは押し倒された。

そして、目の前には岬がいた。

岬「あはははww それじゃいただきますww」

ぐちゃぐちゃぐちゃっ

岬は目玉をとって笑っていた。

岬「あははははははww」

ラ「あああああああああああ！……！！！」

岬「ねえ？ もっと泣いて、叫んで！！ 僕に聞かせて！」

ラ「やめっ、助けて…」

岬「あははww」

？「遊びもいい加減にしろ。 ライトは返してもらっぞ！」

岬「君は誰？」

異常な世界 十七話（後書き）

次回

鬼とかした岬の前に現れたのは？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6252x/>

異常な世界 男子高の物語でBL要素満点ですww

2011年12月20日23時48分発行